

利尻山のトイレ対策について

須 間 豊（利尻富士町産業建設課）

1. 利尻山の登山者数

ア 年間登山者数

平成 15 年より赤外線による入山カウンターを 6～10 月まで設置し、その他の月は登山計画書により年間の登山者数を把握した。

利尻島の年間観光客数約 22 万人のうちの約 4% が登山客であり、そのうち鴛泊コースが約 91% を占めている。



入山カウンター

（単位：人）

年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
カウンター（6～10 月）	10,971	9,488	9,534
登山計画書 （1～5 月、11～12 月）	300	257	88
登山者数	11,271	9,745	9,622
うち鴛泊コース	9,955	8,675	8,781
うち沓形コース	1,316	1,070	841

イ 月別登山者数（平成 18 年）

最も多く登山している月は 7 月（1 日平均約 121 人）であり、年間の登山者数の約 39% を占めている。

（単位：人）

年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月
登山者数（カウンター）	2,157	3,739	2,385	995	258
うち鴛泊コース	2,024	3,427	2,119	895	228
うち沓形コース	133	312	266	100	30

2. 携帯トイレの有料化

携帯トイレは平成 12 年から無料配布を行い、配布当初の回収率は年間 10% 前後となかなか普及が進まずにいたが、平成 15 年から使用済み携帯トイレケースをセットに入れ、携帯トイレブースをテント製のものから樹脂製のものに変更したところ、回収率が年間 36.4% と大きく上昇した。

その後、平成 17 年までの回収率は年間約 26% で推移し、排泄物やティッシュの散乱もほとんど見られない状況となった。

しかし、少しでも無駄な経費をかけないようにと未使用携帯トイレの返却を呼びかけ、登山口に返却ボックスを設置したが、平成 17 年では配布数から使用済みの回収数を除いた 6,781 個のうち 610 個（返却率 9%）しか返却されなかった。



携帯トイレ



携帯トイレブース（避難小屋 テント製）



携帯トイレブース（避難小屋 樹脂製）

さらに 3 年間受けていた市町村振興協会からの助成が平成 17 年で終了し、平成 18 年からは年間 200 万円の購入費を町が全額負担しなくてはならない状況となった。

そこで、携帯トイレの有料化に向け、平成 17 年に登山者へアンケート調査を実施したところ、回答した 101 人のうち 36.6%（37 人）が 100 円程度、40.6%（41 人）が 200～300 円程度、5.9%（6 人）が 500 円程度で購入しても良いという回答が得られ、全体の 83.2%（84 人）の方が有料化に理解を示したことから、平成 18 年からの有料化を決めた。



有料化アンケート

3. 携帯トイレの販売及び周知

携帯トイレの販売価格は税込み 400 円（携帯トイレ 1 個、使用済携帯トイレケース 1 ケース）で、島内各宿泊施設、商店、コンビニエンスストア、観光案内所、キャンプ場で販売した。

また、山のトイレマナー袋（株ムッシュより 10,000 袋無償提供）を販売時に配布し、ゴミの回収についても協力を呼びかけている。

有料化の周知については、販売用ポスター及び有料化パンフレットの作成、フェリーの船内放送、山岳雑誌・新聞・ホームページ等への掲載を行い、旅行エージェント等山岳関係団体へは文書を送付した。

【販売箇所別販売数】（単位：個）

名称	販売数
宿泊施設	3,922
商店、コンビニ	310
観光案内所	88
キャンプ場	626
計	4,946

【案内文書送付数】（単位：件）

名称	送付数
旅行エージェント	76
山岳連盟	16
山岳会	58
北海道山岳ガイド協会会員	32
登山用品店	25
その他	43
計	250



山のトイレマナー袋



販売用ポスター



有料化パンフレット（表）



有料化パンフレット（裏）

4. 携帯トイレの利用状況

使用済携帯トイレの回収率は平成 16、17 年と約 26%で推移していたが、平成 18 年は 48.4%と大きく上昇した。

理由としては、回収数が 2,396 個と平成 17 年とほぼ同じであるが、分母である配布数が有料化により約半数となったことが原因である。

ただし、販売数が半数にはなっているものの、4,946 個の販売は当初 3 分の 1 程度の約 3,000 個と想定していた数を大きく上回っており、昨年までは無料配布のために必要としない人への配布が相当数あったことを考えると、登山客の環境保護の意識は有料化となっても変化はないと思われる。



使用済携帯トイレ回収ボックス

(単位：個)

年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
携帯トイレ配布数 (H18～販売数)	9,517	9,210	4,946
回収数	2,545	2,429	2,396
うち鴛泊コース	2,424	2,376	2,366
うち沓形コース	121	53	30
回収率	26.7%	26.4%	48.4%

5. 携帯トイレブースの設置状況

携帯トイレブースは平成 14 年に設置した一体型樹脂製ブース 3 基と、平成 15 年に設置した組立式樹脂製ブースが 2 基あるが、雪の影響で屋根がつぶれたり、老朽化によりドアの破損が著しいことから、屋根は円錐型の形状とし、ドアをスライド式のタイプへ更新する必要がある。



携帯トイレブース (9 合目 一体型)



携帯トイレブース (避難小屋 組立式)

6. 携帯トイレブースの維持管理

携帯トイレブースは利尻山登山道等維持管理連絡協議会（平成 17 年 6 月発足）の会員や登山道監視員、民間ボランティアが定期的に清掃活動、補修作業、越冬作業を行っている。

前項にも記載したが、トイレブースのドアの破損が著しく、平成 18 年では大型の蝶番を設置した。



清掃活動



補修作業（蝶番取付）



越冬作業

7. 携帯トイレ募金（林野庁環境整備推進協力金）

携帯トイレ募金については、平成 16 年から実施し、携帯トイレ配布数から見た一人当たりの募金額は平成 16 年で 12.2 円、平成 17 年で 8.4 円であった。

平成 18 年からは携帯トイレを有料化したこともあり、利尻山環境整備募金と名称を変え、登山道、避難小屋、携帯トイレブースの清掃活動費として協力を呼びかけている。



募金箱（登山道入口）

（単位：円）

年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
募金額（5～10 月）	116,074	77,688	17,195

8. 利尻山登山道等維持管理連絡協議会

利尻町、利尻富士町ほか関係 12 団体によって構成されている利尻山登山道等維持管理連絡協議会では、今後の利尻山の維持管理のあり方について積極的に話し合っており、平成 18 年では環境省のグリーンワーカー事業を受託して登山道の足場の悪い箇所へ土のう積み階段を設置した。

約 80m の区間に 150 個の土のうを敷き詰め階段状にし、登山者の足場を確保するとともに、登山道の浸食を防いでいる。



土のう積み階段設置作業



進入禁止ロープ付け替え作業



土のう積み階段（設置後）

また、登山道の補助ロープや進入禁止ロープの付け替え、オーバーユースと考えられている登山客の分散を図るための旧登山道のササ刈り作業、定期的な登山道の監視活動を行っている。

利尻山の侵食、崩壊が進んでいく中で、国では一昨年から利尻山の調査活動を実施し、本格的に利尻山の保全対策に乗り出し始めたところである。

連絡協議会では、調査結果を踏まえ、今後も国と一体となった保全対策を行っていく予定である。